

昭和42年度海外関係事業について

海外地質調査協力室

地質調査所における海外関係の業務は年々増加してきたが とくに42年度からは沿海鉱物資源探査 地下水開発の2つの集団研修コースが発足したことによって海外業務は飛躍的に増大することになった。これらにそなえて 42年4月から新しい組織 海外地質調査協力室が設けられたいきさつについては ニュース153号に述べたとおりである。

半年余を経過した現在 42年度の海外関係業務の実施状況を振りかえって見ることとする。

1. 海外研究員(留学)関係

42年度は従来に比べて多くの海外研究員を送り出した。氏名 研究機関等は次のとおりである。

地質部	河内洋祐	ニュージーランド オタゴ大学 低度変成岩の研究 科学技術庁長期在外研究 6月24日発
技術部	柴田 賢	カナダ地質調査所 地質絶対年代の研究 日加交流 9月9日発
物探部	金谷 弘	フランス原子力庁 核燃料資源の研究 科学技術庁原子力留学 10月12日発
技術部	安藤 厚	アメリカ・ハーバード大学 分光分析の研究 ギャランティ 11月1日発
地質部	平山次郎	ソ連・モスクワ大学 断層及び褶曲の研究 日ソ交流 11月9日発

以上のほか 昭和37年からカナダに滞在中の鉱床部佐々木昭技官があり 現在6名が在外研究中である。

ソ連への留学は地質調査所でははじめてのケースで 成果が大いに期待される。

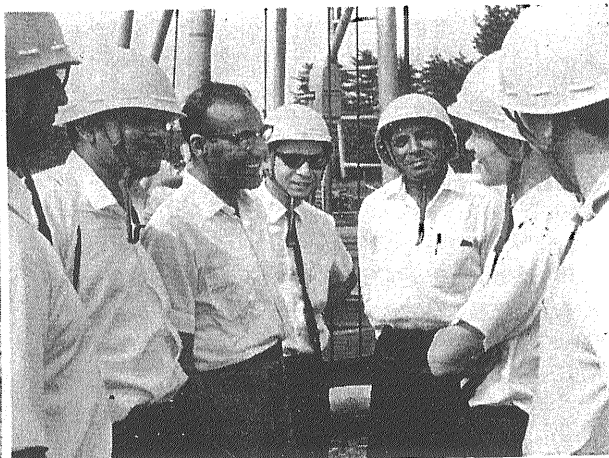
2. 研修員の受入れ

前記2つの集団研修のほか 数名の個別研修員が2カ月ないし6カ月の日程で来所し 本年度は合計30名近い研修員を受入れた。これらはいずれも海外技術協力事業団による海外技術協力の一部として行なわれているものであるが 地質調査所々員のほか 各官庁 大学 会社から講義 実習 見学等に対して多くのご協力を得て 多人数の研修という困難な仕事をともかく大過なく修了し得たわけである。個別研修は従来から行なわれて来たもので 個人々と直接に十分な話し合いが出来るので 比較的やりやすいといえるが 集団の場合には 教科内容スケジュール等にもまだ多くの問題点を残しており 第2年目以降にはさらに内容を充実し 運営の円滑をはかって 各国の期待に沿うよう努力しなければならない。

これらの集団研修はエカフェの強い要請から出発したものであるため エカフェ関係の諸会議でもしばしば話題に取り上げられ エカフェ事務局ならびに各国代表から感謝の言葉が述べられており さらにユネスコ本部からも この集団研修に協力の申出があるなど 各方面にかなり大きな反響を与えている。それだけに これに当るものの責任も重大であることを痛感している。



沿海探査集団の研修(重力探査の実習)



地下水開発集団の研修(さく井の実務)〔蔵田延男技官提供〕

3. 専門家の派遣

41年度以前に海外に専門家として派遣され 42年度に、帰国および派遣された所員は 次のとおりである。

派遣専門家(4月~12月間の帰国 出国)

期 間	氏 名	派 遣 先	目 的
42.3.1~ 42.4.30	馬場 健三	中華民国台湾	地熱開発調査
40.11.7~ 42.5.8	高島 清	アルゼンチン	金属鉱床調査
41.9.21~ 42.6.2	平山 健	サウジアラビア	金属鉱床調査
40.12.3~ 42.6.2	小村幸二郎	"	"
"	東元 定雄	"	"
"	小谷 良隆	"	"
"	磯 己代次	"	"
"	桑形 久夫	"	"
41.9.5~ 42.9.4	上野 三義	アルゼンチン	粘土鉱床調査
41.7.9~ 42.9.12	井上 英二	トルコ	石炭鉱床調査
40.9.27~ 42.5.22	竹田 英夫	エクワドル	金属鉱床調査
42.5.22~ 42.7.20	中村 久由	中華民国台湾	"
42.6.12~2ヵ年	佐野 俊一	タイ	エカフェ事務局 専門家
42.6.27~1ヵ年	沢 俊明	トルコ	金属鉱床調査
42.8.17~ 42.9.30	陶山 淳二	インドネシア	石油鉱床調査
42.8.17~ 42.10.10	斎藤友三郎	"	"
42.8.17~ 42.10.10	小川 克郎	"	"
42.11.6~ 42.11.20	石和田靖章	"	"
42.11.15~ 1.5ヵ年	広川 治	サウジアラビア	金属鉱床調査
"	松田 武雄	"	"
"	高橋 清	"	"
"	東元 定雄	"	"
"	五十嵐俊雄	"	"
"	磯山 功	"	"
"	桑形 久夫	"	"
42.11.24~2ヵ月	藤田 延男	エチオピア	地下水調査
"	村下 敏夫	"	"
42.12.1~80日	大山 桂	中・西部南太平洋	底棲生物研究
42.12.13~6ヵ月	沢村孝之助	中華民国台湾	銅鉱床調査
"	清島 信之	"	"
"	本間 一郎	"	"
"	加藤 甲壬	"	"

佐野技官のエカフェ事務局勤務は 前記エカフェ沿海鉱物探査委員会事務局の技術担当官として協力するもので研修および 43年1月以降実施を予定されている台湾 フィリピン海域における沿海鉱物探査の技術協力とともに一連の海外協力の一環となっている。

また アラビア エチオピア 台湾の地熱等はいずれも 第2次 第3次等の調査で 先に派遣された調査員

の成果により このように引続き第2次 第3次の協力量がある場合が多い。

4. 国際会議

42年6月にソウルで また11月に台北で 第3および第4回のエカフェ沿海鉱物探査の委員会が開かれた。両会議とも早川物探部長が日本政府代表と技術顧問を兼ねて出席した。会議においてはとくに 日本の集団研修実施 技術担当官の派遣 調査団派遣の申入れが高く評価・感謝され 事実上日本が委員会のリーダーをつとめる形になっている。今後 当委員会は加盟国も増加し ますます活動は盛んになると思われる。

国際学会としては10月にスイスのチューリッヒで開かれた国際測地学地球物理学会に早川物探部長が招かれて出席し とくに地熱関係の日本の研究成果を発表した。12月にはバンコクにおいて エカフェ・肥料原料鉱物セミナーが開かれ 安斉海外室長がエカフェ事務局に招かれた。

来 訪 者

月 月	氏 名	国 籍	現 職	備 考
4月4日	R.L.Whiting	米 国	石油鉱床コンサル タレント	
4月18日	S.F.A.Shah	パキスタ ン	鉱山会社技師	
6月16日	J.Eftekharnejad	イ ラ ン	地質調査所	
6月20日	A.G.Obermuller	フランス	エカフェ技術顧問	
"	M.Mainguy	"	"	
6月21日	J.M.Rayner	オースト ラリア	地質調査所長	
5月29日	G.K.Jones	米 国	地質調査所	
6月10日	I.A.Breger	米 国	"	
6月21日	U.Aswathanerayana	イ ン ド	アングラ大学教授	
7月7日	C.Y.Li	中華民国	エカフェ事務局	
"	L.Stack	オースト ラリア	"	
"	R.H.Gees	ドイ ツ	"	
7月6日	C.Y.Meng	中華民国	中国石油公社	
"	S.Y.Chain	"	"	
"	Y.S.Pang	"	"	
"	Tong	"	"	
7月19日	B.M.Bench	米 国	フォード財団地質 コンサルタ ント	
7月26日	D.W.Procter	英 国	マレーシア地質調 査所長代理	
8月15日	J.A.Ramirey	米 国	コロンビア工業研 究所副所長	
8月15日	Caldwell	米 国	モービル石油技師	
8月29日	B.F.Buie	"	フロリダ州立大学 教授	
8月25日	H.S.Shih	中華民国	成功大学土木学教 授	
9月7日	W.J.Reilly	ニュージ ランド	地球物理研究所	
9月8日	R.Copeman	英 国	世界大理石調査会	
9月21日	H.Harder	ドイ ツ	ゲッティンゲン大学 教授	
9月25日	Quinto	フィリビ ン	鉱山会社物探技師	

9月25日	V.Dumitru	ルーマニア	大使館商務官
10月2日	T.C.Mclaughlin	米 国	地質調査所
10月20日	L.C.Noakes	オーストラリア	鉱物資源局
10月30日	林 朝 啓	中華民国	台湾大学教授
10月30日	M. I Chowdhurg	パキスタン	公共事業局委員
11月2日	Krishnan	ネパール	"
11月18日	金 元 眺	韓 国	地質調査所
"	金 鐘 珠	"	"
"	柳 公 烈	"	"
"	林 正 雄	"	"
"	玄 炳 九	"	ソウル大学
"	季 高 萬	"	"

S.J.Yang	韓 国	地質調査所物探部	沿海探査
D.H.Canh	ベトナム	工業省鉱山指導部長	"
H.B.Hassan	マレー	鉱山局	"
B.V.Cruz	フィリピン	鉱山局	"
M.D.Siahaan	インドネシア	ペリトン錫鉱山沿海探査部	"
C.L.Chiang	中華民国	中国石油公社地質部	"
S.C.Chiang	"	中国石油公社地質部	"
J.S.Chen	"	中国石油公社地質部	"
R.M.Winnetou	インドネシア	政府留学生	"

地下水開発集団研修

月 日	氏 名	国 籍	現 職	目 的
6月1日～11月30日	A.R.Kohnaward	アフガニスタン	水・土壌調査局地下水部長	地下水開発
	U.M.Ko	ビルマ	公共事業省水衛生部	"
	W.Tenekoon	セイロン	灌漑事業省	"
	M.L.Srivastava	インド	農業省深井戸開発部	"
	A.Notosubroto	インドネシア	ワキタ・カラオ土木建築会社社長	"
	F.Esfandiari	イラン	水・発電省技術局	"
	H.U.Lim	韓 国	地質調査所	"
	S.Vilay	ラオス	公共事業技術センター	"
	F.Q.Khan	パキスタン	灌漑事業局	"
	R.Navia	フィリピン	水理局地下水部	"
	B.Tantraphon	タイ	鉱物資源省地下水部	"

個別研修

月 日	氏 名	国 籍	現 職	目 的
6月1日～7月20日	鄭 瑞 熾	中華民国	中国政府經濟部	ドロマイト調査研修
7月1日～12月31日	郭 業 輝	"	"	試錐調査
9月1日～11月30日	截 国 邦	"	"	地化学探査
9月23日～25日	I.A.Falesi	ブラジル	パラ連邦大学教授	土壌分析
9月25日～10月3日	M.Yaqoob	パキスタン	工業開発公社	炭田地質調査
9月29日	郭 英 勲	韓 国	地質調査所	物理探査
10月3日～43年4月2日	R.Djajadiningrat	インドネシア	鉱山局	非金属鉱物調査研究
"	S.Sapari	"	鉱山局	"

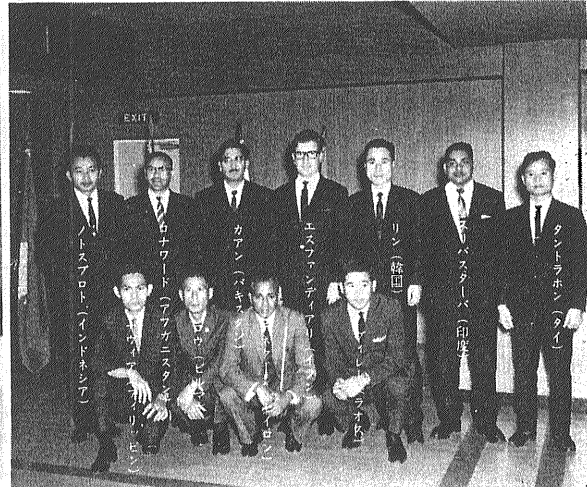
沿海探査集団研修

月 日	氏 名	国 籍	現 職	目 的
6月1日～12月31日	D.Thawisak	タ イ	鉱物資源省応用地質部	沿海探査
	G.Y.Yew	韓 国	地質調査所物探部	"

以上のように42年度に入って地質調査所の海外業務は急激に増大し 所内において大きな比重を占めるにいたった。しかし 派遣 受入れの所内体制をはじめ多くの不十分な点が感ぜられ 今後十分な成果を挙げるには 多くの努力を要し 同時に所外からも多くの協力を得なければならないと思われる。



地下水開発集団の閉講式における佐藤地質調査所長の挨拶



地下水開発集団の閉講式(42.11.22)の際の記念撮影(中央研修センター)